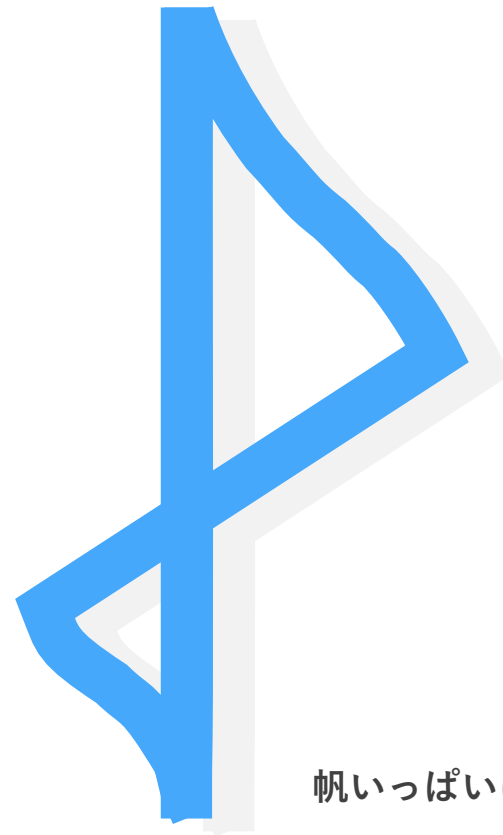


日本海信用金庫

第103期 (2026年3月期) 業務報告書



帆いっぱい、夢をはらんで。

1

第103期（2026年3月期）の振り返り

2

第103期（2026年3月期）の決算

3

第104期（2027年3月期）の計画

4

剰余金処分案

1

第103期（2026年3月期）の振り返り

2

第103期（2026年3月期）の決算

3

第104期（2027年3月期）の計画

4

剰余金処分案

2025年度
事業計画方針

石見地域の特色と住民の多様なニーズを的確に捉え、環境・社会・経済の各側面から持続可能な発展に寄与するとともに、卓越した専門性と柔軟なサービスで、地域の皆様から絶大な信頼を勝ち取る金融機関を目指す。

事業計画方針のもと、以下の項目を「KPI」に設定し、目標達成に向け取り組みました。
市場金利の上昇や物価高騰など目まぐるしい環境変化の中、多くの項目で目標を上回る実績を残すことができました。

戦略目標および需要課題		KPI			
		目標		実績	達成率
安定した収益確保 への取組み	貸出金利息	貸出金利息	855,069千円	863,612千円	100.99%
		PH貸出金利息	8,301千円	8,384千円	100.99%
	事業性融資取引先数		1,015先	985先	97.04%
	事業性融資の折り返し率		116%	115%	99.14%
	預け金利息		177百万円	181百万円	102.26%
	有価証券利息（投信メンテ前）		455百万円	466百万円	102.42%
	若年層への取組み 3市の人口に対する融資先比率		2.50%	2.64%	105.3%
	クロスセルへの取組み ① 給与振込+住宅or消費者ローン		26.0%	21.9%	84.1%
	クロスセルへの取組み ② 住宅ローン+消費者ローン		43.4%	44.7%	103.1%
課題解決に向けた事業先支援		事業性評価に基づく融資	100件・1,500百万円	155件・2,158百万円	143.87%

1

第103期（2026年3月期）の振り返り

2

第103期（2026年3月期）の決算

3

第104期（2027年3月期）の計画

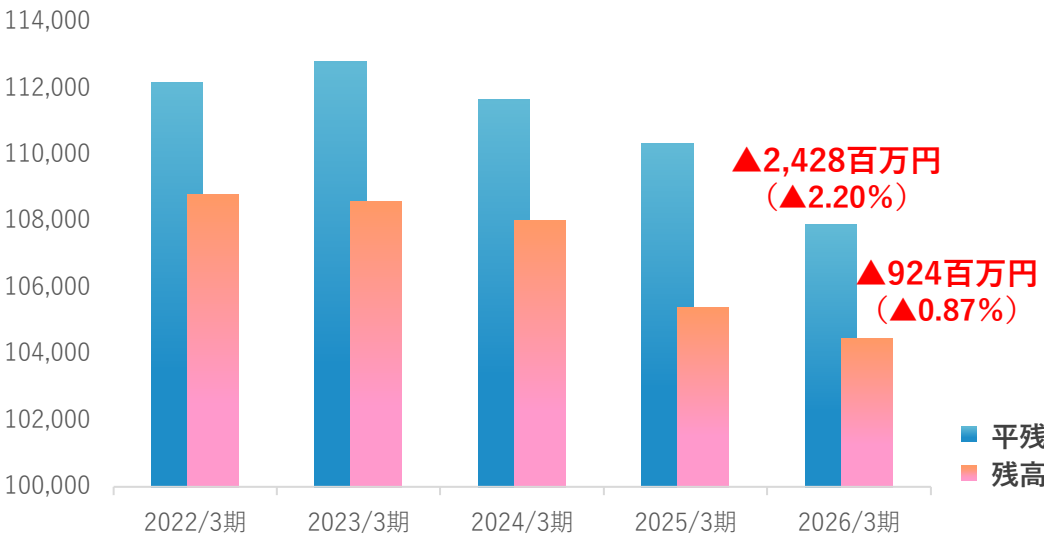
4

剰余金処分案

- ▶ 預金については、特別金利キャンペーン等を実施したものの、他行競合や物価高に起因する資金需要により個人・法人とも減少しました。
- ▶ 貸出金については、物価高に起因する資金需要等もあり、折り返し融資の需要が強く、前期を上回る実績となりました。

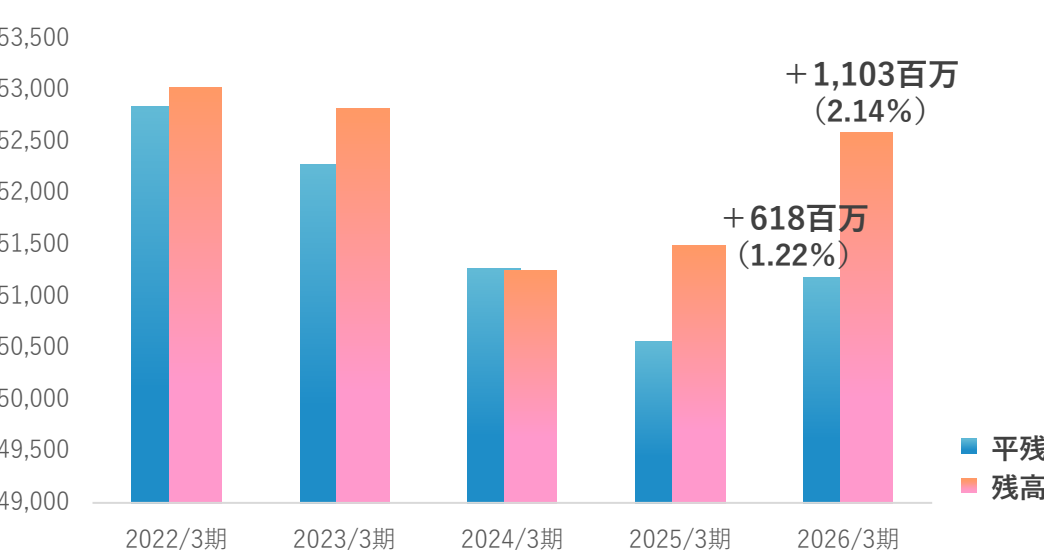
預金積金の推移

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
預金積金（平残）	112,210	112,836	111,686	110,351	107,923
流動性	60,774	63,053	62,916	63,651	62,088
定期性	51,435	49,783	48,770	46,700	45,834
預金積金（残高）	108,822	108,617	108,047	105,416	104,492
流動性	58,278	59,568	59,954	60,860	57,886
定期性	50,543	49,048	48,093	44,555	46,605



貸出金の推移

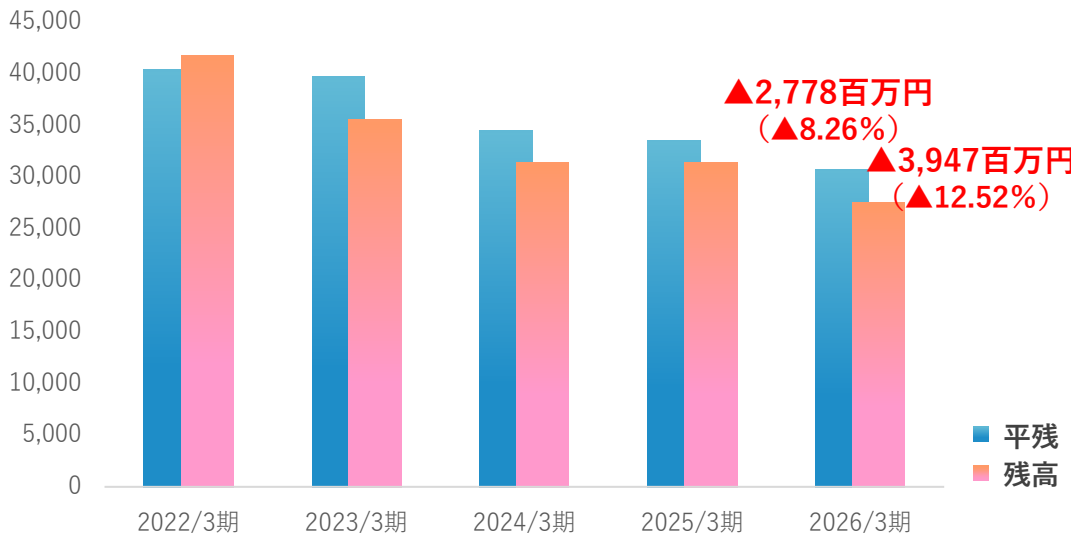
	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
貸出金（平残）	52,841	52,287	51,276	50,565	51,183
貸出金（残高）	53,028	52,827	51,257	51,491	52,595
うち事業性	30,339	30,178	29,199	30,166	31,811
うち金融機関	850	850	500	500	500
うち地公体	8,762	8,241	7,381	6,483	5,774
うち個人（事業性除く）	13,077	13,558	14,177	14,342	14,509
うち住宅ローン	8,947	9,442	9,647	9,987	10,152



- ▶ 有価証券については、リスク管理の観点から新規投資を抑制しつつ、機動的なメンテナンスを実施したことで残高は減少となりました。
- ▶ 預け金については、有価証券の売却や預金の減少により平均残高は横ばい、期末残高は増加となりました。

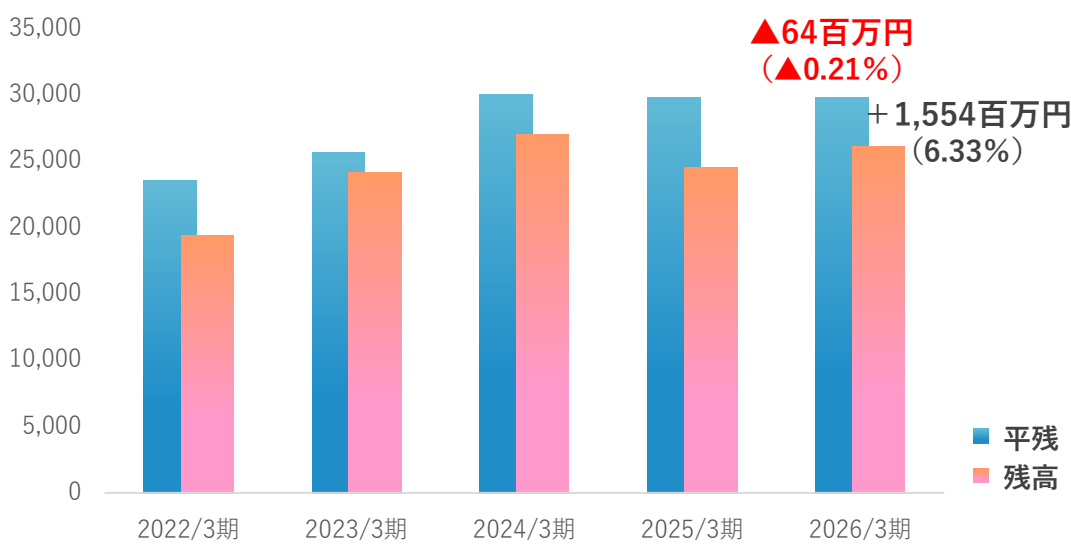
有価証券の推移

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
有価証券（平残）	40,452	39,785	34,560	33,600	30,821
満期保有	3,428	3,366	3,398	3,554	3,700
その他	37,024	36,419	31,162	30,045	27,121
有価証券（残高）	41,775	35,597	31,499	31,515	27,568
満期保有	3,279	3,374	3,503	3,711	3,736
その他	38,495	32,223	27,996	27,804	23,831



預け金の推移

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
預け金（平残）	23,542	25,626	30,050	29,851	29,786
預け金（残高）	19,365	24,158	27,046	24,521	26,075

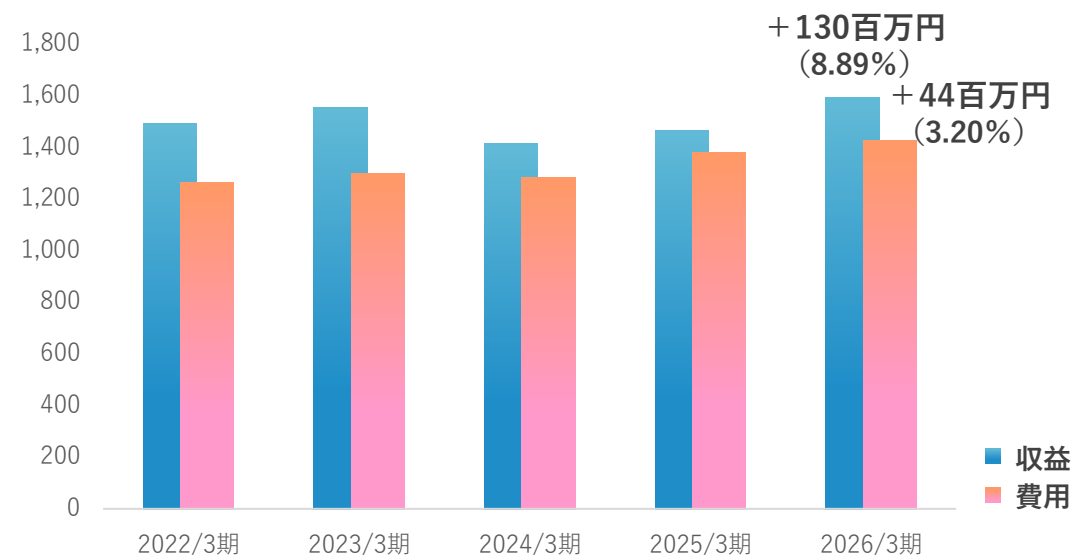


- ▶ 市場金利の上昇に対して機動的に対応したことで資金運用収益を中心にが増加。一方、預金支払利息も大幅に増加しました。
- ▶ 収益性の改善が費用増加を上回り増益決算となりました。本業の儲けを示すコア業務純益も対前年比で50百万円程度改善しました。

経常収益及び費用の推移

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
経常収益	1,495	1,558	1,415	1,465	1,595
貸出金利息	766	751	735	766	863
預け金利息	25	35	73	126	181
有価証券利息配当金	415	385	359	338	356
経常費用	1,265	1,302	1,286	1,384	1,429
預金利息	15	12	11	65	203
人件費	654	642	619	663	627
物件費	374	360	375	383	388

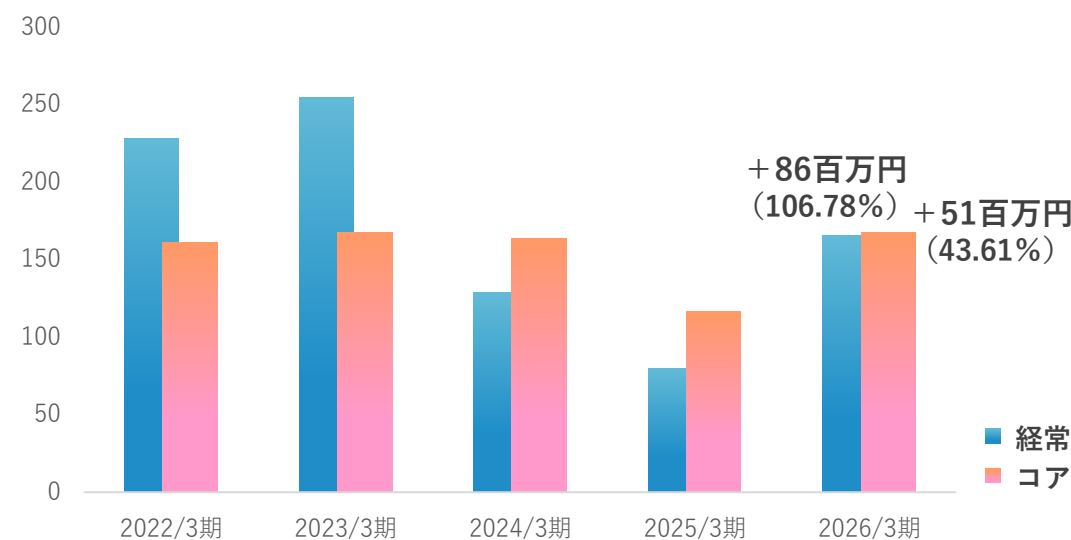
単位：百万円



利益項目の推移

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
経常利益（経常損失）	229	255	129	80	166
特別損益	-3	-67	-6	-3	8
特別利益	0	2	13	0	13
特別損失	3	70	20	3	4
当期純利益（当期純損失）	215	139	97	110	200
コア業務純益	161	168	164	117	168

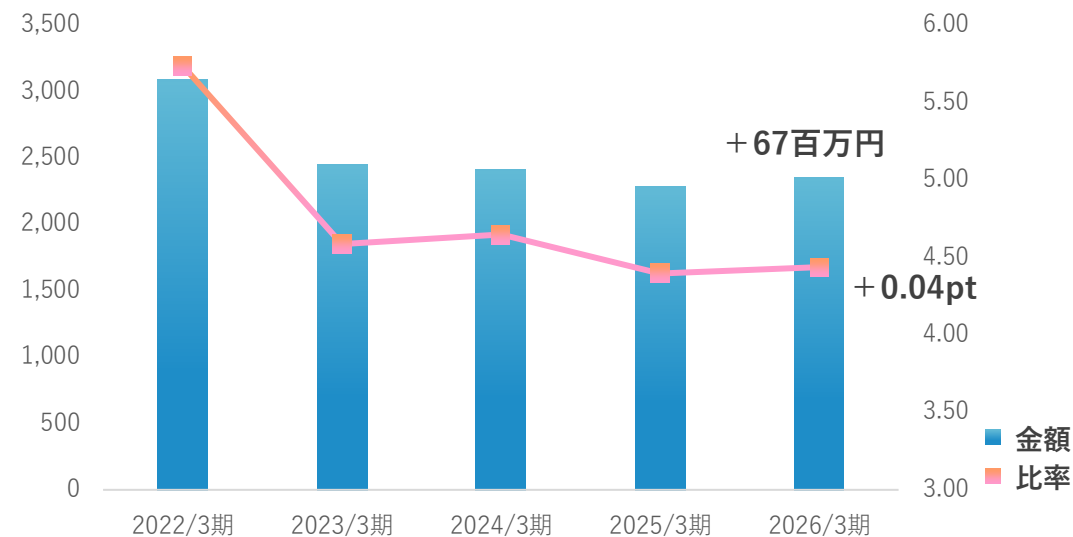
単位：百万円



- ▶ 物価高騰や人件費の上昇など取引先事業者の経営環境悪化に伴い、不良債権額は増加となりました。
- ▶ 自己資本額については利益の積み増しにより増加しました。また、分母となるRA（リスクアセット）の減少により自己資本比率も上昇しました。

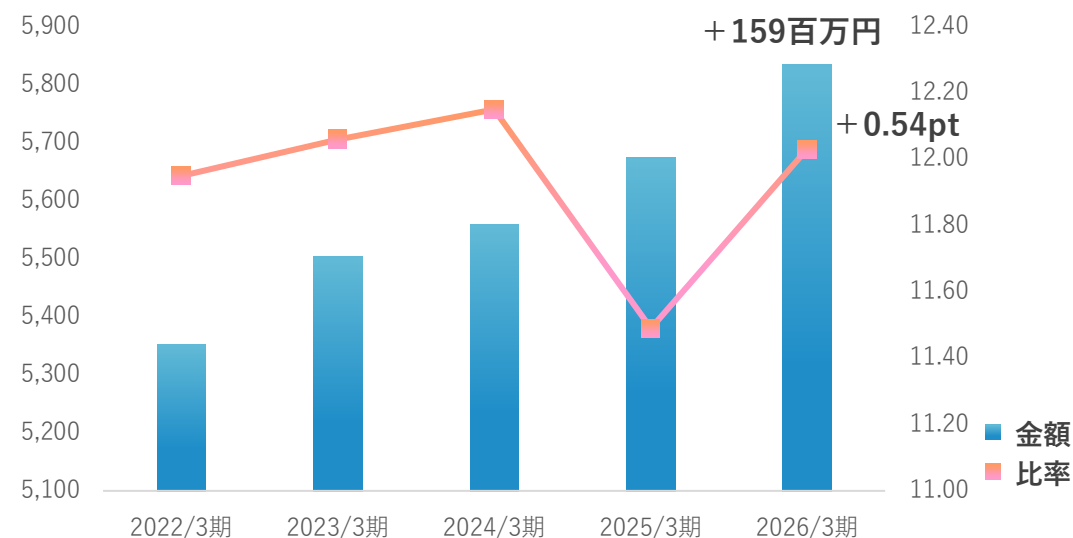
不良債権額及び不良債権比率の推移

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
不良債権額	3,091	2,454	2,418	2,290	2,357
不良債権比率（％）	5.74	4.59	4.65	4.40	4.44



自己資本額及び自己資本比率の推移

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
自己資本額	5,353	5,504	5,559	5,675	5,834
自己資本比率（％）	11.95	12.06	12.15	11.49	12.03



1

第103期（2026年3月期）の振り返り

2

第103期（2026年3月期）の決算

3

第104期（2027年3月期）の計画

4

剰余金処分案

2026年度
事業計画方針

当金庫は、石見地域を本拠とする責任金融機関として会員、お客さま、そして職員を含む地域すべての人の成長と幸せのために行動し、お客さまの経営課題、ライフプランや地域社会の持続的発展に向けた課題解決の担い手としての存在感を発揮し、地域で最も信頼される金融機関を目指す。また、地域経済を活性化させるような金融サービスを提供する力、すなわち「地域金融力」を発揮することが、地域金融機関に課せられた課題であり、事業承継・M&A支援、事業再生支援などの強化を図る。

重要施策

計数計画

単位：百万円

▶ 事業承継・M&A支援、事業再生支援の強化

業務効率化により1日の訪問活動時間を十分に確保し顧客との対話を深める。
必要に応じて外部機関との連携を図り、支援を推進する。

▶ 貸出先数の増加（早期の1,000先達成）

システム導入によりスケジュール管理を徹底し、新規訪問件数の増加を目指す。
創業・新事業創出支援の充実を図り、資金需要の掘り起こしを試みる。

▶ 粘着性の高い預金の獲得推進

給振り、年金受取口座の獲得推進を図る。
個人定期預金の推進強化を図る。

▶ 若年層取引の強化（給振、預金、ローン等）

消費者ローンの推進強化を図り、若年層との取引拡大を狙う。
内勤者によるローラー、ポスティング、電話セールス等の実施。

	3か年	単年度	差額
預金積金（平残）	112,000	109,000	-3,000
貸出金（平残）	50,500	51,700	1,200
有価証券（平残）	33,959	31,590	-2,369
コア業務純益	172	194	22
貸出金利息	740	955	215
有価証券利息配当金	341	423	82
預金支払利息	33	340	307
経費	1,057	1,136	79
経常利益	96	124	28
当期純利益 ※	89	127	38
貸出金利回り	1.467	1.847	0.380
有価証券利回り	1.050	1.340	0.290
預金利回り	0.030	0.312	0.282
総資金利鞘	0.064	0.097	0.033
修正OHR（除く投信解約損益）	80.400	85.370	4.970

※ 除く配当利子所得税還付見込額

1

第103期（2026年3月期）の振り返り

2

第103期（2026年3月期）の決算

3

第104期（2027年3月期）の計画

4

剰余金処分案

2025年4月1日 ～ 2026年3月31日

科目	金額
当期末処分剰余金	232,010,057 円
当期末処分剰余金	232,010,057 円

これを次の通り処分いたします



剰余金処分数額	211,148,173 円
利益準備金	▲ 1,143,000 円
普通出資に対する配当金	(年2%) 12,291,173 円
特別積立金	200,000,000 円
繰越金（当期末残高）	20,861,884 円